


## 令和 5（2023）年度 研究サマリー

研究会名称	電解水透析研究会	
代表者所属	聖路加国際病院 腎臓内科	
代表者氏名	中山 昌明	
<p><b>【研究方法・結果】</b></p> <p>電解水透析研究会総会を2023年5月20日に開催。          前々年度同研究会総会にて承認された「電解水血液透析患者の現況を把握する為の調査研究（2018年6月聖路加国際病院倫理委員会承認済）」に関する報告および今年度の実施が承認された。          下記の通り調査/報告を行った。</p> <p>「電解水血液透析患者の現況を把握する為の調査研究（聖路加国際病院倫理委員会承認済）」の実施。          対 象：</p> <p>① 過去本調査に登録されている例          ② 新規症例⇒当該年に電解水血液透析を年間6か月以上受けている患者              ⇒当該年に断続的であっても年間9か月以上実施している例</p> <p>調査委内容：患者背景・基礎特性。調査年における患者転帰・死因（転院後1か月以内死亡も含める）を横断的に確認。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>2022年12月末状況は、確認患者数15施設・1,941例（男性63%、平均年齢72歳）、当該年1～12月で総死亡98例（平均年齢80歳）、粗死亡率5.0%だった。          死因は上位より感染症20.4%、悪性腫瘍、脳血管疾患がそれぞれ8.1%、心不全7.1%、心筋梗塞、その他心疾患が4.0%、肝胆膵疾患3.1%、カヘキシア、高K/突然死がそれぞれ6.1%、などであった。          粗死亡率の年代別（44歳以下、45～64歳、65～75歳、75～84歳、85歳以上）の全てにおいて全国平均に比べ低く、特に75～84歳では全国平均14.39%に対して4.31%、85歳以上では全国平均28.06%に対して14.05%と大きく低かった。死因に関しては、全国平均2位の心不全が21.8%に対して7.1%と約3分の1程度と低く特徴的であった。粗死亡率の年毎の比較においては、2018年から2021年までは全国平均の約10%に対して、5%前後の約半分をキープしていた。</p> <p><b>【考察と結論】</b> EHD患者の粗死亡率は国内患者と比べて低かった。その背景には感染症や心不全死亡が相対的に少ないことが関与している可能性がある。</p>		